



給食だより 1月

群馬大学共同教育学部附属小学校 管理栄養士 鈴木 真佐子

明けましておめでとうございます。元気に新しい年を迎えることができましたか。今年も安心、安全で魅力ある給食を作っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

学校給食の歴史を知ろう～1月24日は給食記念日です～

毎年1月24日の給食記念日からの一週間は、全国学校給食週間となっています。ぜひ給食について見つめなおす機会にしてほしいと思います。また、昔と今の給食には、どのような違いがあるのでしょうか？お家の人や、おじいちゃん、おばあちゃんなどから、給食の思い出を聞いてみましょう。

どんな食器を使っていたの？

給食の思い出は？
好きなメニューは？



脱脂粉乳って
どんな味だった？

◇最初の給食は、なんと100年以上前

日本で最初の学校給食は、明治22年(1889年)に、山形県鶴岡町の忠愛小学校で始まりました。地域のお寺が、お弁当を持ってこれない貧しい子どもたちのために、おにぎりや塩ざけ、菜っ葉の漬物を無料で出したことが、初めての給食とされています。

◇給食の再開をお祝いする日「学校給食記念日」

昭和2年には、全国で約200万人の子どもたちが給食を食べていましたが、長い戦争が始まり、給食は一時姿を消してしまいます。戦後の貧しさと食料不足から子どもたちを救うために、昭和21年(1946年)に、東京・千葉・神奈川で試験的な給食が再開されました。この記念すべき日が12月24日です。現在の12月24日は、学校がお休みということもあり、1カ月後の1月24日を記念日とすることになりました。

昔の給食は食材も限られ、栄養補給が中心でした。今、私たちが食べている給食は食材も豊富で、栄養バランスだけでなく、デザートや果物がつくなど、バラエティー豊かな給食へと変化しました。豊かな食生活になった一方、日本では毎日たくさんの食べ物が捨てられています。食べ物が不足していた時代を知り、いろいろな食べ物を食べられることに感謝する気持ちをもって、残さず食べられるようになるとよいですね。



◇給食のうつりかわりを見てみよう！

